

「沈む冬の大三角」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

東京では冬が終わろうとしているが、北軽井沢はまだ完全に雪景色だ。春の気配といえば、シジュウカラが盛んに鳴きだしたことがらだろう。しかし地上の気候とは関係なく、天球の運動は非常に正確に季節を刻んでいる。

昨夜遅く、三脚を持って「冬の名残の星々」を撮りに出かけた。寒さにバッテリーをやられて、車のエンジンがかからないままなので、山荘から歩いていける見通しのいい場所までである。3月とはいえ、北軽井沢の夜の気温は氷点下7℃。森では「ゴロスケホッホー」と、フクロウが鳴いていた。西の空を見ると、冬の大三角が沈みかけている。さっそく雪の上に三脚を立てて撮影した。

恒星の明るさは、写真上では星像の大きさで表現される。に明るさや恒星の色を的確に表現したい時は、レンズの前面に、「クロスフィルター」を装着すると



「フィルターなしで撮影した冬の大三角」

効果的である。クロスフィルターというのは、ガラス

上に十字型に細い溝が掘ってある、特殊なフィルターだ。これを装着すると、点光源に十字型のスターが現れる。特に恒星を「きらびやか」に写すには効果的だ。十字型の「スター」は明るい星ほど長く写る。更に恒星の色もわかりやすくなる。

左の写真が、クロスフィルターを装着して撮影した「冬の大三角」である。明らかにシリウスが一番明るく、次がベテルギウスとわかる。プロキオンよりもリゲルのほうが明るいのも面白い。天の川もうっすらと写っている。

昨夜は、星空を通して、過ぎ行く季節を実感することができた。

